

# 特集 音楽×文学

対談 中沢けい×伊藤氏貴 6

岡田暁生 芸術／音楽は世界の明日を予感できるか 28

許光俊 小説家の耳 31

青柳いづみこ サテイとドビュッシー音と言葉をめぐる冒険

樋口隆一 私にとつての音楽と文学 41

——西脇順三郎と尾崎喜八の思い出

鈴木淳史 物語として響きわたるシューマンの音楽 47

寺村摩耶子 よあけの晩に——わらべうたの世界 53

新保祐司 中里介山とベートーヴェン 60

——『大菩薩峠』と「エロイカ」

吉岡しげ美 私的「音楽詩」の世界 70

## 名作再見

安岡章太郎 ジングル・ベル 80

芥川龍之介 ピアノ 88

文科 吉村昭作品——私の睡眠薬 黒岩夕城 90

パラオの中島敦と土方久功 清水久夫 92

——コーヒーをめぐる

追想——宮内豊・齋藤慎爾 立石伯 94

創作 くすぐり〈6〉 大道珠貴 106

冬相聞 三咲光郎 116

弥生坂——志賀先生の思い出—— 大嶋岳夫 127

佐久のラザロ 岩下壽之 137

なぞる 望月なな 149

影炎ナイフ 陸田京介 171

集中連載 氾濫する『豊饒の海』 松本徹 289

——三島由紀夫 最後の五年間④

松本徹

289

## 同人雑誌季評

断裂の二重線 (担当最終回) 河中郁男 253

信じること、疑うこと 谷村順一 282

## 新連載

昭和恋愛短編集① 池上線 佐藤洋二郎 96

私を魅了した銀幕のスターたち(洋画篇) 大鐘稔彦

連載 遠き日々 映る影たち〈6〉 柴田翔 207

海の詩学—三島由紀夫〈16〉  
「青垣山の物語」における日本武尊—その海と詩、そして神性 鈴木ふさ子 210

学界への窓 26

二〇二四年十月、パリにて—『パサージュ論』を読みながら— 霜田文子 241

文藝季評 49

人間とは何か 伊藤氏貴 245

道元—「正法眼蔵」の宇宙と人間〈九〉

仏性—恒久普遍なるもの〈八〉 勝又浩 354

同人雑誌および本誌会員から

オフレコと取材源の秘匿 雄高敬介 249

短篇の効用 河内康 251

砦

勝又浩 198 松本徹 366

会員規約 368

今号の執筆者 369

編集後記 370